

射水市内遺跡発掘調査報告11

— 平成29年度射水市内遺跡発掘調査 —

2019年

富山県射水市教育委員会

射水市内遺跡発掘調査報告11

— 平成29年度射水市内遺跡発掘調査 —

2019年

富山県射水市教育委員会

射水市内遺跡発掘調査報告11

— 平成29年度射水市内遺跡発掘調査 —

2019年

富山県射水市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成29年度に富山県射水市内において射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
 - 2 発掘調査・出土品整理・報告書刊行は、国庫補助金・県費補助金の交付を受けて実施した。
 - 3 調査対象とした埋蔵文化財包蔵地名及び調査位置・原因・面積・期間等は各章に記した。
 - 4 本書の執筆・編集は、射水市教育委員会生涯学習・スポーツ課主任 金三津英則が担当した。
 - 5 遺物整理の従事者は、高瀬直子・吉沢泰子である。
 - 6 発掘調査に係る出土遺物・図面・写真等の資料は、すべて射水市教育委員会で一括保管している。

凡 例

- 1 本書で用いた座標は、世界測地系第Ⅷ系に準拠した。方位は真北、水平基準は海拔高である。

2 遺構の分類記号は、次の呼称を踏襲した。 SD: 溝 SK: 土坑 SX: 不明遺構

3 遺構実測図の縮尺は、各々のスケールとともにその縮尺を表記した。遺物実測図の縮尺は土器の
1/4を基本とし、スケールとともにその縮尺を表記した。

4 出土遺物の番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版の遺物番号にそれぞれ対応している。

5 本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に準拠している。

6 第2章第1節、第2節の調査地区図版内にある試掘トレンチ脇の記号は、遺物の出土位置を示し、
種類は次のとおり表示した。

 - : 純文土器 ○: 弥生土器 ▽: 古墳土師器 ◇: 古代土師器 ▲: 須恵器
 - ◆: 珠洲 □: 中世土師器 ■: 中世陶磁器 ⊗: 近世陶磁器 ☒: 近代以降の遺物
 - ☆: 石製品 ★: 金属製品 ○: 木製品 ◇: その他の遺物
 - T: レンチ(試掘坑)

7 遺物実測図中の土器断面の表現は次のとおりとした。

■: 須恵器・珠洲	■: 煤・炭化物	■: 赤彩処理
-----------	----------	---------

目 次

第1章	射水市の位置と歴史的環境	1
第1節	射水市の位置と歴史的環境	1
第2節	平成29年度実施の埋蔵文化財調査	1
第2章	平成29年度実施の発掘調査	3
第1節	各種開発に伴う試掘調査	3
1.	日の宮遺跡	5
2.	二口油免遺跡	6
3.	荒町遺跡	7
4.	復興小杉焼中吉原窯跡	8
5.	赤井遺跡	9
6.	朴木C遺跡	10
7.	松木中鹿遺跡	11
8.	小杉伊勢領遺跡	12
9.	黒河尺目遺跡	13
第2節	赤田地区試掘調査	12
1.	調査に至る経緯と経過	12
2.	調査の方法	12
3.	調査の結果	13
第3節	工事立会調査	19
1.	青井谷地区林道整備に伴う工事立会調査	19
2.	水戸田地区は揚整備事業に伴う工事立会調査	21

挿図目次

第1図	射水市の位置	1
第2図	射水市内の主要遺跡	2
第3図	平成29年度試掘調査実施箇所位置図	4
第4図	赤田地区試掘調査対象地及び周辺の遺跡	12
第5図	赤田地区試掘調査トレンチ配置図（1）	14
第6図	赤田地区試掘調査トレンチ配置図（2）	15
第7図	赤田I 遺跡遺構図	16
第8図	赤田地区試掘調査遺物実測図（1）	17
第9図	赤田地区試掘調査遺物実測図（2）	18
第10図	平成29年度工事立会調査実施箇所位置図	20
第11図	水戸田地区工事立会調査対象地及び周辺の遺跡	21
第12図	工事立会調査遺物実測図 〔水戸田惣分I 遺跡・水戸田惣分II 遺跡・水戸田遺跡・青井谷干田VI 遺跡〕	23

表目次

第1表	平成29年度埋蔵文化財試掘調査一覧	3
第2表	赤田地区試掘調査トレンチ一覧（1）	14
第3表	赤田地区試掘調査トレンチ一覧（2）	15
第4表	平成29年度埋蔵文化財工事立会調査一覧	19
第5表	出土遺物観察表〔試掘調査・工事立会調査〕（1～46）	24

図版目次

図版1	日の宮遺跡・畠総No16遺跡試掘調査	遺構検出状況・土層断面
図版2	二口油免遺跡・黒河西山遺跡試掘調査	遺構検出状況・試掘トレンチ近景
図版3	荒町遺跡・復興小杉焼中吉原窯跡・赤井遺跡試掘調査	土層断面・試掘トレンチ全景・試掘トレンチ近景
図版4	高木・荒畑遺跡・朴木C遺跡・背戸狭間遺跡試掘調査	試掘トレンチ全景・土層断面
図版5	松木中鹿遺跡・小杉伊勢領遺跡試掘調査	遺構検出状況・出土遺物 (松木中鹿遺跡：弥生土器)
図版6	小杉伊勢領遺跡・黒河尺目遺跡試掘調査	出土遺物（小杉伊勢領遺跡：須恵器・土師器）・ 土層断面
図版7	赤田地区試掘調査	土層断面・遺構検出状況
図版8	赤田地区試掘調査	遺構検出状況・調査状況
図版9	赤田地区試掘調査	出土遺物（須恵器・土師器）
図版10	赤田地区試掘調査	出土遺物 (弥生土器・須恵器・土師器・珠洲・青磁)
図版11	青井谷地区・水戸田地区工事立会調査	調査状況・遺物出土地点土層
図版12	水戸田地区工事立会調査	遺構検出状況・調査状況
図版13	水戸田地区工事立会調査	遺物出土状況・調査状況
図版14	青井谷地区・水戸田地区工事立会調査	出土遺物（弥生土器・須恵器・珠洲・灰釉陶器）

第1章 射水市の位置と歴史的環境

第1節 射水市の位置と歴史的環境

射水市は富山県のほぼ中央に位置し、市域は東西約11km、南北約15kmで面積109.43kmである。北に富山湾、中央に射水平野、南部に射水丘陵を配し、標高0~140mを測る。

富山市・高岡市と隣接し、交通の便に恵まれていることから、住宅団地造成が頻繁に行われ、ベットタウン化が進んでいる。現在の人口は約9万4千人弱である。

市域の大部分を占める射水平野は、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11km、南北約7kmの沖積平野であり、およそ1万~8千年前に河川によって運ばれた土砂・粘土・礫などの堆積からなる。この沖積層が堆積した時代は海岸線が沖へ後退し、平野部は現在より広かったとみられるが、その後、いわゆる縄文海進期における海面の上昇によって、海岸線の内陸への進出とともに平野部が狭まり、現在の標高約5m以下は海面下に没したと考えられている。

やがて、気候の寒冷化による海岸線の後退と丘陵部からの土砂の堆積が進むと、かつての海は縮小して放生津潟（現：富山新港）としてのみ形を残し、周辺に低湿な射水平野が開けていった。

市域の南部に広がる射水丘陵は、新生代第三紀の青井谷泥岩層を基盤とし、上層に礫と砂泥からなる日ノ宮互層と太閤山火碎岩層の堆積から成る。丘陵部には、鍛冶川・下条川・和田川やその支流によって河岸段丘や樹枝状の谷間が形成されている。

このような自然環境の中で、先人達は集落を形成していくと考えられる。現在、市内には459箇所の遺跡が密集し、平野部では集落遺跡、丘陵部には生産遺跡が多く確認されている。

平野部では、河川に近い地域に高島A遺跡、北高木遺跡、二口油免遺跡、小杉伊勢領遺跡などの集落遺跡が分布し、堅穴建物や掘立柱建物、溝や戸井などが確認されている。生産地である丘陵部と消費地である平野部とを河川が結んで、交通路として機能していたために集落が営まれてきたと考えられている。

丘陵部では国指定史跡の小杉丸山遺跡、小杉流通業務団地内遺跡、上野南遺跡、赤坂A~D遺跡など生産遺跡が集中している。これらの遺跡は、須恵器窯跡約40遺跡、製鉄遺跡約150遺跡を数え、県内最大規模を有する。須恵器生産窯跡や鉄生産製鉄炉と炭窯、工人の住居や作業場が見つかり、窯や炉を築くのに適した地形、粘土や薪・水の供給源が豊富にあることが好条件であったと考えられている。

第2節 平成29年度実施の埋蔵文化財調査

平成29年度の射水市管内における各種民間開発事業に係る埋蔵文化財包蔵地の照会件数は296件であった。公共事業関連の開発事業に関しては、関係部局より随時照会を受けるとともに協議を実施している。

文化財保護法第93条の届出件数は34件、同第94条の通知件数は8件であり、うち、発掘調査等による対応件数は、前年度以前からの継続案件も含め、試掘調査が15件、工事立会調査が17件となっている。



第1図 射水市の位置



- ①放生津城跡 ②下村加茂道跡 ③松木道跡
④高島A道跡 ⑤作道道跡 ⑥北高木道跡
⑦小林道跡 ⑧八尋A道跡 ⑨愛宕道跡
⑩小杉伊勢領道跡 ⑪杏田I道跡 ⑫日宮城跡
⑬鶴山道跡 ⑭中山南道跡 ⑮針原西道跡
⑯針原東道跡 ⑰鷲河口目道跡 ⑱草山口道跡
⑲南太閼山I道跡 ⑳上野道跡 ㉑天地C道跡
㉒五歩一古墳 ㉓小杉大山道跡 ㉔二ノ浦先道跡
㉕安吉道跡 ㉖布目沢北道跡 ㉗小泉道跡
㉘大塚古墳 ㉙串田新道跡 ㉚水上谷道跡

第2図 射水市内の主要遺跡

第2章 平成29年度実施の発掘調査

第1節 各種開発に伴う試掘調査

平成29年度に射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財の試掘調査件数は15件であった。

調査原因としては個人専用住宅の建築（5件）が最も多いが、過去数年は半数以上を占めていたものが3割程度となっている。これに対して、赤田地区での土地区画整理事業をはじめ、規模の大小はあるが宅地造成に伴う調査件数が増加している。

試掘調査によって保護を要すべき埋蔵文化財が確認された際には、原因者に対して盛土保存や計画変更等による埋蔵文化財の現状保存を第一とし、現状保存が不可能となった場合は本発掘調査による記録保存対応での協議を求める。

次節で報告する赤田地区土地区画整理事業に伴う試掘調査では、調査の結果、保護を要すべき埋蔵文化財の広がりが確認されたことから、開発事業者（土地区画整理組合）との協議を重ね、街区道路敷範囲の本発掘調査を平成30年度に実施することとなった。販売される住宅区画のうち、埋蔵文化財の保護措置が必要となる区画については、盛土による造成工事施工後、土地購入者等に対し個別に埋蔵文化財の保護措置に関する協議を求めていくこととなる。

No.	遺跡名	種 別	所在地	調査原因	調査期間	対象面積	発掘面積	検出遺構	出土遺物	調査後の措置
1	日吉遺跡 211148	散在地・ 集落	橋下条374号	駐車場造成	H29.6.28	972.0m ²	727m ²	不明：溝 自然風貌	なし	工事実施 (支障なし)
2	御園Na16遺跡 211007	散布地	堀町1519	農耕具供納庫 建設・駐車場 建設・駐車場 造成	H29.8.1	613.0m ²	557m ²	なし	なし	工事実施 (支障なし)
3	二丁目南免遺跡 211003	散布地	二丁目南免437-3	駐車場造成	H29.8.17	389.0m ²	350m ²	古墳：溝・土坑 古墳土器	なし	工事実施 (支障なし)
4	黒河内C遺跡 211001	散在地・ 聚落・ 城郭	黒河内新字西山4796-1	宅地造成	H29.8.30	704.0m ²	684m ²	なし	なし	工事実施 (支障なし)
5	荒町遺跡 211418	散布地	荒町33-1	個人専用 住宅建築	H29.9.8	273.0m ²	252m ²	なし	なし	工事実施 (支障なし)
6	復興小林町中吉 新宿跡 211259	空	三ヶ宇中吉原3721-1	市道実施 (季節性建設)	H29.9.8	512.0m ²	200m ²	なし	なし	工事実施 (支障なし)
7	赤井C遺跡 211045	集落・ 城郭	赤井字鳥崎518-4	個人専用 住宅建築	H29.10.16	499.0m ²	396m ²	なし	なし	工事実施 (盛土保存)
8	高木・荒堀遺跡 211029	集落	高木10394号	市道建設	H29.10.24	1950.0m ²	507m ²	なし	なし	工事実施 (支障なし)
9	籽木C遺跡 211044	散布地	籽木204	駐車場造成	H29.10.25	150.0m ²	111m ²	なし	なし	工事実施 (支障なし)
10	青ノ状原遺跡 211015	散布地	青光寺99	宅地造成	H29.11.20	281.0m ²	226m ²	なし	なし	工事実施 (支障なし)
11	松本中野遺跡 211023	集落	松本176	農耕具供納庫 建設	H29.11.21～22	435.0m ²	409m ²	衛生・溝 衛生・土器	なし	工事実施 (支障なし)
12	小竹村妙見遺跡 211087	散在地・ 集落	三丁2276-3、2276-5	個人専用 住宅建築	H29.11.27	362.0m ²	274m ²	不明：土坑 古代須恵器、古代土器	なし	工事実施 (支障なし)
13	小竹村妙見遺跡 211087	散在地・ 集落	三丁2266-1、2266-5	個人専用 住宅建築	H29.12.4	227.4m ²	99m ²	なし	なし	工事実施 (支障なし)
14	黒河内日遺跡 211104	散在地・ 集落	堀越818-10	個人専用 住宅建築	H30.3.30	248.6m ²	188m ²	なし	なし	工事実施 (支障なし)
15	赤田1遺跡 211361	散在地・ 集落	橋下条1094 9572号	土地区画整理	H29.6.~20	36254.9m ²	19338m ²	古代：溝・土坑 近代：溝・土坑 不明：溝・土坑 衛生土器、古代前史器、 古代土器、古代須恵器、 中世須恵器、 中世土器	なし	保存協議中 (一部本発掘 調査)
計	14遺跡15件		調査対象面積	63860m ²		発掘面積	2426.8m ²			

第1表 平成29年度埋蔵文化財試掘調査一覧



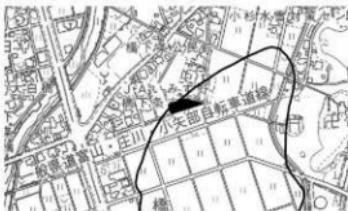
*地図中①～⑯の箇所番号は、第1表及び次頁以降の調査番号に対応（赤田地区は次節参照）

第3図 平成29年度試掘調査実施箇所位置図

【平成29年度試掘調査概要】

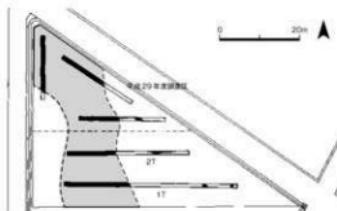
1. 日の宮遺跡（図版1）

所 在 地 射水市橋下条574
調 査 原 因 駐車場造成
調 査 期 間 平成29年6月28日
調 査 面 積 対象面積：972m² 発掘面積：72.7m²
調 査 担 当 者 金三津英則
検 出 遺 構 不明構・自然流路
出 土 遺 物 なし



調 査 概 要 調査対象地は、日の宮遺跡範囲の北端部に位置する水田であり、北側には平成29年3月に実施した二の井Ⅲ遺跡の試掘調査区が隣接している。

地山の浅黄色（2.5Y7/3）シルト層は、耕土直下で現れ、調査対象地の西半部には、平成29年3月調査区へ続く自然流路が広がっている。その他1・2Tにおいて溝状造構を検出しているが、時期は不明である。



2. 畑総No.16遺跡（図版2）

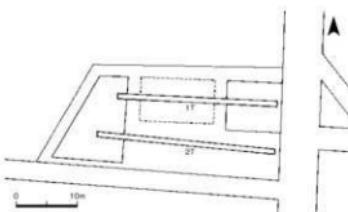
所 在 地 射水市塙越1519
調 査 原 因 農機具格納庫及び駐車場造成
調 査 期 間 平成29年8月1日
調 査 面 積 対象面積：613m² 発掘面積：55.7m²
調 査 担 当 者 金三津英則
検 出 遺 構 なし
出 土 遺 物 なし



調 査 概 要 調査対象地は、畠総No.16遺跡範囲の北東端部に位置する竹林であり、北側には市指定史跡三十三塚のうち、最大規模（直径約8.6m）の親塚が隣接している。

地表下約40cmまでは竹の地下茎が密生しており、黒色シルト層を挟んで地山の浅黄色（2.5Y7/3）シルト層に至る。

自然地形とみられる地山の落ち込みを除き、遺構・遺物は確認できなかった。



3. 二口油免遺跡（図版2）

所 在 地 射水市二口437-3

調査原因 駐車場造成

調査期間 平成29年8月17日

調査面積 対象面積：389m² 発掘面積：35m²

調査担当者 金三津英則

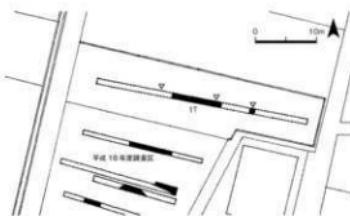
検出遺構 古墳溝・土坑

出土遺物 古墳土師器



調査概要 調査対象地は、二口油免遺跡範囲の南端部に位置する水田である。南側には、平成18年度試掘調査区が、東側には、平成8・9年度本発掘調査区がそれぞれ隣接しており、周囲一帯は、古墳時代前期の遺構・遺物が広がる場所として知られている。

今回の調査では、平成18年度調査区から続く溝・土坑とみられる遺構を検出したが、遺構の遺存状況は不良であり、土師器の細片が数点出土したのみであった。



4. 黒河西山遺跡（図版2）

所 在 地 射水市黒河新字西山4798-1

調査原因 宅地造成

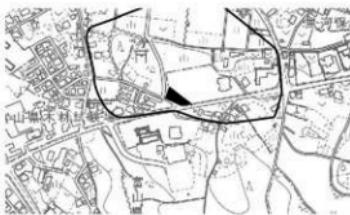
調査期間 平成29年8月30日

調査面積 対象面積：704m² 発掘面積：68.4m²

調査担当者 金三津英則

検出遺構 なし

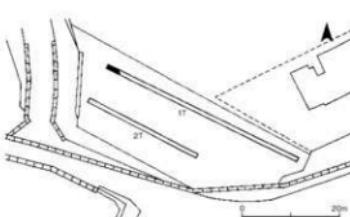
出土遺物 なし



調査概要 調査対象地は、黒河西山遺跡範囲の南端部に位置する宅地であり、東側には、8世紀代の炭焼窯・須恵器窯が確認された昭和63年本発掘調査区が隣接している。

明黄褐色（2.5Y7/6）シルトの地山は、1Tでは表土直下で現れるが、2Tでは地表下約2mの深さまで落ち込み、調査対象地が、昭和63年調査区から続く丘陵（消滅）裾部に位置することを示している。

遺構・遺物は確認できなかった。



5. 荒町遺跡（図版3）

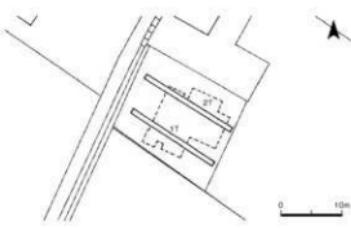
所 在 地 射水市荒町33-1
調 査 原 因 個人専用住宅建築
調 査 期 間 平成29年9月8日
調 査 面 積 対象面積：273m² 発掘面積：29.2m²
調査担当者 金三津英則
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要 調査対象地は、荒町遺跡範囲の南西部に位置する水田である。

上層から、水田耕土、黒褐色シルトの順に堆積し、地山のにぶい黄褐色(25Y7/6)シルト層に至る。

地山の直下は礫層であり、場所によつては地山の表面や上層の黒褐色シルト層にも直径15cm程度の円礫が含まれている。

遺構・遺物は確認できなかった。



6. 復興小杉焼中吉原窯跡（図版3）

所 在 地 射水市三ヶ中吉原3721-1
調 査 原 因 市有地売却
調 査 期 間 平成29年9月8日
調 査 面 積 対象面積：512m² 発掘面積：20m²
調査担当者 尾野寺克実
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要 復興小杉焼中吉原窯跡は、江戸時代後期から明治時代後期に生産された小杉焼の復興を期して昭和10年代後半のごく短期間に操業された復興小杉焼の窯跡の一つである。

近隣での発掘調査歴がなく、窯体等遺構に関する情報も不足していたが、調査対象地では、黄褐色(2.5Y5/3)シルトの地山層までコンクリート片を含む擾乱が及んでおり、遺構・遺物は確認できなかった。



7. 赤井遺跡（図版3）

所 在 地 射水市赤井字馬塚518-4

調査原因 個人専用住宅建築

調査期間 平成29年10月16日

調査面積 対象面積：499m² 発掘面積：30.6m²

調査担当者 金三津英則

検出遺構 なし

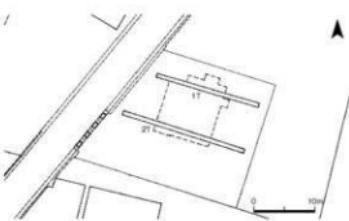
出土遺物 なし

調査概要 調査対象地は、赤井遺跡範囲の南西部に位置する水田である。

上層から、水田耕土、褐色砂、黒色シルトの順に堆積し、地山の灰色（2.5Y6/1）シルト層に至る。

地山は、トレーンチ西端部から東端部にかけて30cm程度低くなり、地山の深い場所では腐植物層が堆積する。

遺構・遺物は確認できなかった。



8. 高木・荒畠遺跡（図版4）

所 在 地 射水市高木103外4筆

調査原因 市道建設

調査期間 平成29年10月24日

調査面積 対象面積：1,950m² 発掘面積：50.7m²

調査担当者 金三津英則

検出遺構 なし

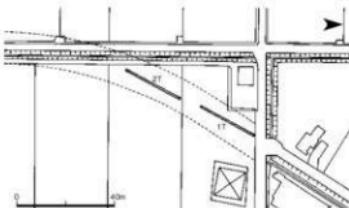
出土遺物 なし

調査概要 調査対象地は、高木・荒畠遺跡範囲の南端部に位置する水田である。

上層から、水田耕土、灰色砂・黒褐色粘質土（盛土）、オリーブ灰色砂の順に堆積し、地山の灰色（2.5Y6/1）シルト層に至る。

地山は、1T北端から南に向かって落ち込み、1・2T境付近では地表下2m以上の深さとなる。

遺構・遺物は確認できなかった。



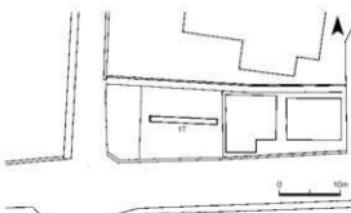
9. 朴木C遺跡（図版4）

所在地 射水市朴木204
調査原因 駐車場造成
調査期間 平成29年10月25日
調査面積 対象面積：150m² 発掘面積：11.1m²
調査担当者 金三津英則
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要 調査対象地は、朴木C遺跡範囲の中央部に位置する畑地である。周辺部では、平成7年以降、各種開発に伴う試掘調査が実施されており、周囲一帯に弥生時代後期を中心とした遺構・遺物が広がっている。

上層から、畑耕土、黒褐色シルトの順に堆積し、地山のにぶい黄色（2.5Y6/4）シルト層に至る。

遺構・遺物は確認できなかった。



10. 背戸狭間遺跡（図版4）

所在地 射水市善光寺9-9
調査原因 宅地造成
調査期間 平成29年11月20日
調査面積 対象面積：281m² 発掘面積：22.6m²
調査担当者 金三津英則
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要 調査対象地は、背戸狭間遺跡範囲の北東端部に位置する宅地である。

上層から、造成盛土、褐灰色シルトの順に堆積し、地山の灰オリーブ（5Y6/2）シルト層に至る。

地山は、ちょうど埋蔵文化財包蔵地範囲の北端にあたるトレンチ中央部から、北に向かって40cm程度落ち込む。

遺構・遺物は確認できなかった。



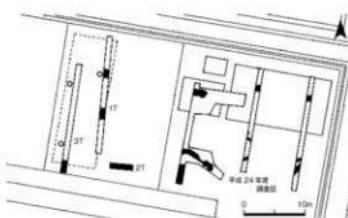
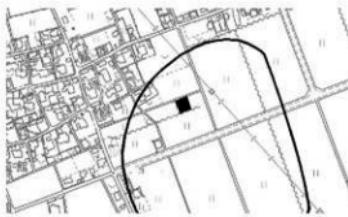
11. 松木中鹿遺跡（図版5）

所 在 地 射水市松木176
調査原因 農機具格納庫建設
調査期間 平成29年11月21・22日
調査面積 対象面積：455m² 発掘面積：40.9m²
調査担当者 尾野寺克実 金三津英則
検出遺構 弥生溝
出土遺物 弥生土器

調査概要 調査対象地は、松木中鹿遺跡範囲の北側に位置する水田であり、西側には弥生時代末から古墳時代初期にかけての遺構・遺物の広がりが確認された平成24年試掘調査区が隣接している。

地山のオリーブ黄色（5Y6/4）シルト層は耕土直下で現れるが、全体的に耕地整理等による削平の影響を受けている。

1Tにおいて東西方向の溝を検出したが、遺存状況は不良であり、数点の弥生土器細片が出土したのみである。



12. 小杉伊勢領遺跡（図版5）

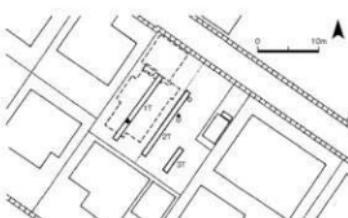
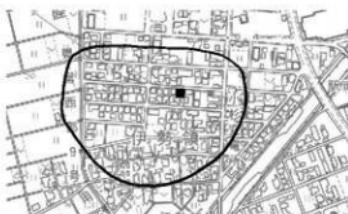
所 在 地 射水市三ヶ2276-3, 2276-5
調査原因 個人専用住宅建築
調査期間 平成29年11月27日
調査面積 対象面積：362m² 発掘面積：27.4m²
調査担当者 金三津英則
検出遺構 不明土坑
出土遺物 古代須恵器、古代土師器

調査概要 調査対象地は、小杉伊勢領遺跡範囲の中央部に位置する宅地である。

上層から、造成盛土、旧水田耕土、黒褐色シルトの順に堆積し、地山の灰オリーブ（5Y6/2）シルト層に至る。

地山は比較的平坦であり、1Tにおいて時期不明の土坑を1基検出した。

遺物は、2T黒褐色シルト層より古代の須恵器・土師器片が数点出土した。



13. 小杉伊勢領遺跡（図版6）

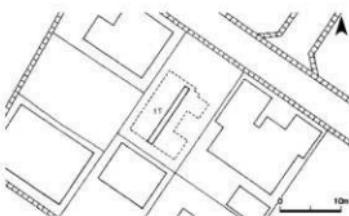
所在地 射水市三ヶ2266-1, 2266-5
調査原因 個人専用住宅建築
調査期間 平成29年12月4日
調査面積 対象面積：227.4m² 発掘面積：9.9m²
調査担当者 金三津英則
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要 調査対象地は、小杉伊勢領遺跡範囲の北西端部に位置する宅地である。

上層から、造成盛土、旧水田耕土の順に堆積し、地山のオリーブ灰色（10Y6/2）シルト層に至る。

地山は比較的平坦であり、安定した堆積状況を示す。

遺構・遺物は確認できなかった。



14. 黒河尺目遺跡（図版6）

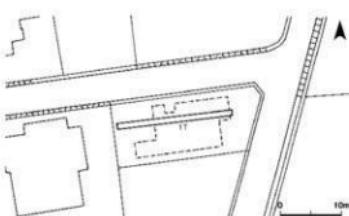
所在地 射水市塚越818-10
調査原因 個人専用住宅建築
調査期間 平成30年3月30日
調査面積 対象面積：248.6m² 発掘面積：18.8m²
調査担当者 金三津英則
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要 調査対象地は、黒河尺目遺跡範囲の南東端部に位置する宅地である。

表土直下で、灰黄褐色（2.5Y7/6）粘質土の上層地山が現れ、黒色シルトを挟んで、灰白色（2.5Y8/2）シルトの下層地山に至る。

地山は、上・下層共に東に向かって徐々に高まり、トレンチ東端部では、削平の影響により上層地山が消滅している。

遺構・遺物は確認できなかった。



第2節 赤田地区試掘調査

1. 調査に至る経緯と調査の経過

射水市赤田地区（橋下条地内）では、平成14年度より約14haの範囲において土地区画整理事業（第1期）が実施され、商業施設及び分譲宅地の整備が行われた。その後、地元では第2期土地区画整理事業構想が持ち上がり、平成28年に射水市赤田第二土地区画整理事業実施のための農振除外及び市街化区域見直し等の手続きがなされた。第二土地区画整理事業は、事業計画地約7haの範囲内に200区画あまりの分譲宅地と幅員6mの街区道路を整備するもので、平成29年秋に土地区画整理事業の認可を受け、平成30年度からの造成工事着手が予定されていた。

事業計画地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である赤田I遺跡範囲の中央部に位置している。

同遺跡では、第1期事業に伴い、平成14年度に試掘調査及び街区道路部分の本発掘調査が実施されており、9世紀後半の草仮名墨書き土器をはじめ、尾張猿投・京都洛北産の綠釉陶器や多数の木製品等が出土した溝が検出された。また、宅地分譲後の平成15年度から平成19年度にかけて、個人住宅の建築に伴う本発掘調査を継続して実施している。

第二土地区画整理事業の計画照会を受け、射水市教育委員会では、平成28年度より事業関係者と射水市都市計画課との三者による協議を重ねて埋蔵文化財の保護措置と事業計画との調整を進め、平成29年度に射水市教育委員会が主体となって、事業計画地全城を対象とした試掘調査を実施することになった。

平成29年4月5日、射水市赤田第二土地区画整理組合設立準備委員会からの文化財保護法第93条の届出及び試掘調査の実施依頼を受理、平成29年6月6日より現地における試掘調査に着手し、6月21日に現地調査を完了した（実働11日間）。



第4図 赤田地区試掘調査対象地及び周辺の遺跡 (1/10,000)

- ①赤田I遺跡 ②大白北遺跡 ③下条新遺跡 ④赤田遺跡 ⑤二の井IV遺跡 ⑥赤田東遺跡 ⑦圓山遺跡 ⑧太閤山温泉遺跡
⑨小杉焼瓦窯跡 ⑩中山北A遺跡 ⑪中山北B遺跡 ⑫中山中遺跡 ⑬中山南遺跡

2. 調査の方法

試掘調査では、山積0.28m³のバックホウを使用して、幅約0.8m、長さ約10~50mの試掘トレンチを任意に設置し、遺構面と考えられる層まで掘り下げた。バックホウによる掘削後、人力によりトレンチ床面及び壁面の精査を行い、遺構・遺物の有無を確認するとともに、土層断面の実測及び写真撮影

による記録を作成した。

記録作成にあたっては、宅地分譲後の住宅建築に際し、遺構の平面的な広がりに加えて、宅地整備後の地表面から遺構面までの深度が埋蔵文化財の保護措置を決定するうえで必要となることから、遺構面標高値の測定に高い精度が求められるため、トレンチ平面位置測量及び標高基準面測量は測量業者に委託して実施した。なお、測量原点となる基準点及び平面図は、事業者が作成した測量成果を使用した。

また、試掘調査の実施に際し、富山県埋蔵文化財センターより調査員の派遣を受け、射水市調査員との2名体制で現地調査を実施した。設定したトレンチは計67本で、発掘面積は1933.8m²である。

3. 調査の結果

(1) 基本層序

調査対象地は、射水丘陵北端部の西側に位置する標高5.5~6.5mの水田である。全体的に平坦な地形であるが、調査対象地中央の市道を挟んだ東側では、丘陵裾部に向かって緩やかに傾斜している。

基本層序は、上層から順に、I層：暗灰黄色（2.5Y4/2）粘質土、II層：黒褐色（2.5Y3/1）シルト、III層：灰オリーブ（5Y5/2）シルト・黄褐色（2.5Y5/3）シルト、IV層：黒褐色（2.5Y3/1）シルト、V層：黄灰色（2.5Y6/1）シルト、VI層：黒色（2.5Y2/1）シルト、VII層：灰白色（5Y7/1）シルトとなる。

I層は現在の水田耕土であり、II層以下が自然堆積層である。

II層は、弥生時代・古代・中世の遺物を包含する。III層は、上層の地山であり、III層上面が古代・中世の遺構検出面となる。VI層は、植物遺体を多量に含む腐植層であり湧水が著しい。VII層は下層の地山である。

古代・中世の遺構検出面であるIII層は、浅い場所では水田耕土直下の地表下20~30cmで現れるため、過去の耕地整理時に削平によって完全に消滅している場所もある。そのような場所では、V層上面で遺構を検出しているが、遺構の大部分は本来III層上面から掘り込まれたものと考えられる。

(2) 遺構及び遺物（第5~9図、図版7~10）

調査の結果、調査対象地中央の北端部において、保護を要すべき埋蔵文化財を確認した。

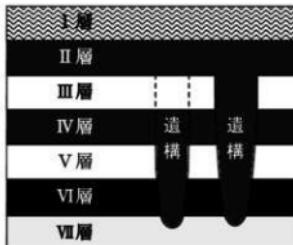
現地形と同様に、地表面も全体的に平坦ではあるが、調査対象地南西部の6~15T付近では、地形の落ち込みが隨所に見られ低湿地の様相を呈している。逆に、市道を挟んだ東側の水田部では、丘陵裾に向かって地山のIII層が高まっていくことに伴って、削平の影響が顕著となっている。

18~20T、65~67Tの範囲では、古代の遺構・遺物が集中している。特に18Tでは大小の溝・土坑を多数検出しておらず、トレンチ中央に位置する土坑を中心に8世紀後半の須恵器・土師器（第8図5・12・14・16・19・20・24、第9図28・29）が出土している。また、この土坑からは、碗型の鉄滓が出土し、埋土に焼土・炭化物が多く含まれていることから、付近に製鉄関連遺構の存在が想定できる。

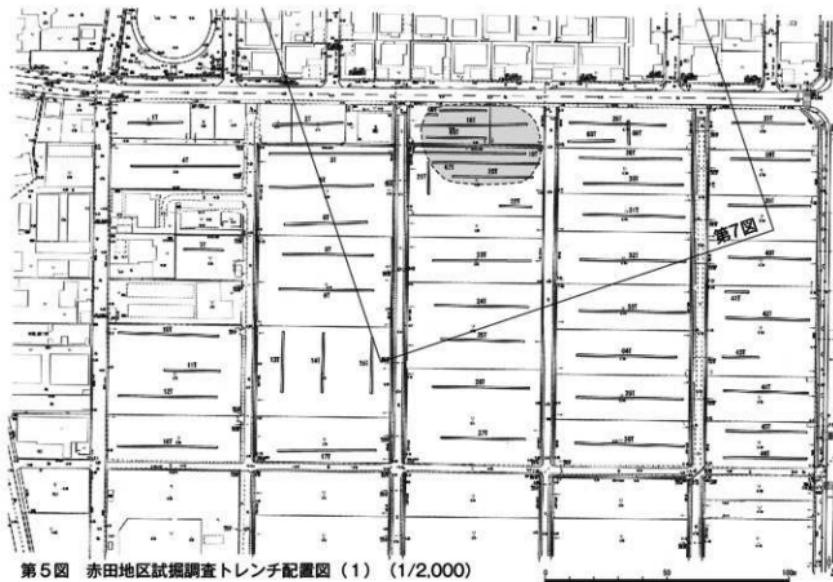
溝状遺構は、南側の20Tまで続くものが見られ、19・20・67Tでは、トレンチの中央より西側に弥生土器（第8図2・3）が一定程度出土しているほか、中世の珠洲焼・青磁なども少數出土している。

また、28・68・69Tの範囲では中世の遺物が、35Tでは古代の遺物が一定量出土しており、38~42Tで検出した一連の溝状遺構からは、1点ではあるが用途不明の木製品（第9図30）も出土している。

その他、溝・土坑などの遺構や、弥生時代~近世にかけての遺物が調査対象地の広い範囲で散在してい



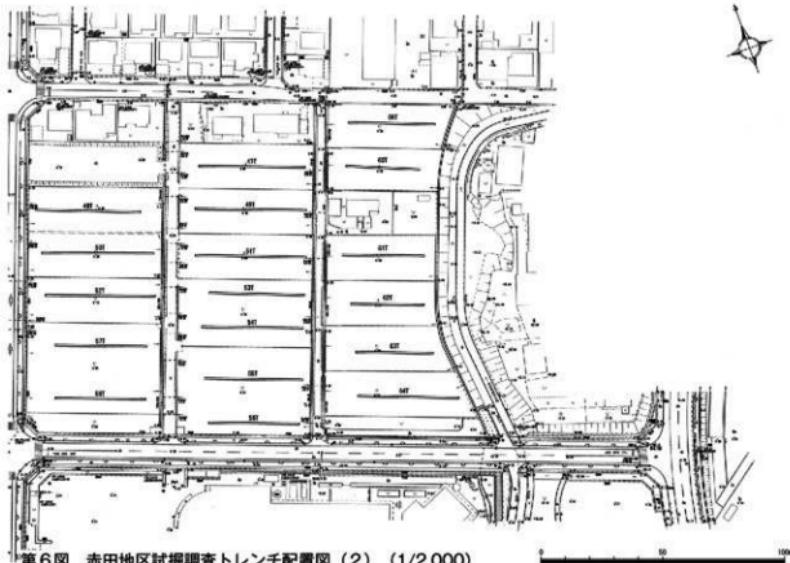
基本層序模式図



第5図 赤田地区試掘調査トレーンチ配置図（1）(1/2,000)

No	延長	検出遺構	出土遺物
1	22.0m	不明溝、鰐丸	古代須恵器、珠沢
2	28.5m	不明溝、鰐丸	
3	50.2m	不明溝	
4	44.5m	不明溝	
5	42.3m	不明溝	
6	34.1m	近現代溝、不明溝	不明上層器 近世磁器
7	16.4m	地形落ち込み	
8	37.2m	地形落ち込み	焼管
9	38.1m	地形落ち込み	珠沢、越中漬口
10	41.3m	不明溝	
11	22.9m		
12	40.4m		
13	24.8m	不明土坑	近代瓦
14	24.9m		
15	22.9m		
16	41.2m		近世陶器
17	40.6m		
18	45.8m	古代溝・土坑、不明溝・土坑	陶生上器、古代須恵器・土師器・鉄洋
19	46.0m	古代溝、不明溝	陶生上器、古代須恵器・土師器、珠沢・中世土器器、近世陶器、近代瓦
20	38.8m	近現代溝、不明溝	陶生上器、古代須恵器・土師器、近代瓦
21	13.1m		古代須恵器
22	13.2m		陶生上器、不明土層器
23	40.5m	自然路路	陶生上器、中世土器器、不明土層器
24	38.8m	不明土坑	陶生上器
25	34.5m		古代須恵器、不明土層器
26	40.1m		珠沢、近世磁器、近代瓦
27	34.7m		古代須恵器、不明土層器
28	39.6m	不明溝・土坑	古代須恵器、中世土器器、不明土層器、砾石
29	41.6m	不明溝	中世青磁、近世磁器、不明土層器、黒曜石片
30	40.7m	近現代溝、不明溝	不明土層器
31	41.4m	不明溝	陶生上器
32	43.5m	不明溝	古代須恵器・土師器、不明土層器
33	43.6m	不明溝	古代須恵器、不明土層器
34	40.8m	不明溝	陶生上器
35	43.5m	不明溝・土坑	陶生上器、古代須恵器・土師器、越中漬戸、鉄石英片

第2表 赤田地区試掘調査トレーンチ一覧（1）



第6図 赤田地区試掘調査トレンチ配置図（2）(1/2,000)

No	延長	検出構	出土遺物
36	446m	不明溝	古代須恵器・土師器、不明土師器
37	297m		
38	229m	不明溝	
39	341m	不明溝	弥生土器
40	340m	近現代溝、不明溝	古代土師器、越中漬戸、木製品
41	99m	不明溝	
42	344m	不明溝	古代須恵器、不明土師器
43	151m		古代須恵器
44	347m		
45	336m		弥生土器？、不明土師器
46	344m		古代須恵器、不明土師器
47	435m	不明溝・土坑	
48	434m		近世磁器、不明土師器、木製品
49	457m		不明土師器
50	459m	近現代溝、不明	近世磁器
51	460m		弥生土器、珠洲
52	452m	不明溝	近現代磁器、木製品
53	390m		
54	415m		
55	402m		珠洲
56	372m		
57	377m	近現代溝	弥生土器、近世磁器
58	371m		
59	256m	不明溝	不明土師器
60	305m		弥生土器
61	318m	不明溝、櫛瓦	
62	302m	不明溝	古代須恵器、不明土師器
63	320m	不明溝	古代須恵器
64	413m	不明溝	古代須恵器・土師器、不明土師器
65	229m	古代溝、不明溝、櫛瓦	古代須恵器・土師器、珠洲・中世土師器、近世陶器
66	250m	不明溝	古代須恵器、青磁、越中漬戸
67	440m	古代溝、土坑、近現代溝、不明溝	弥生土器、古代須恵器・土師器・跳洋、珠洲・中世土師器、越中漬戸、砾石
68	193m		珠洲
69	10.0m	中世溝、不明土坑	珠洲・中世土師器

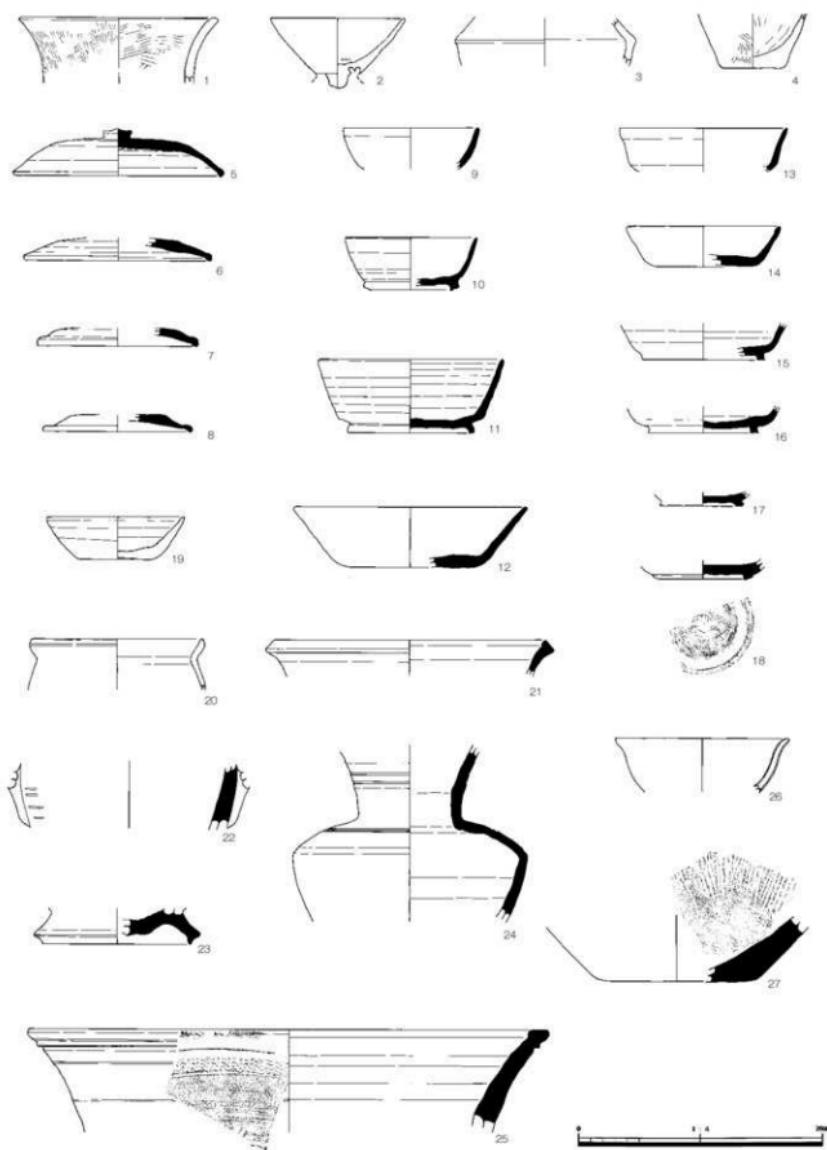
第3表 赤田地区試掘調査トレンチ一覧（2）

赤田 I 遺跡 主要調査区一覧

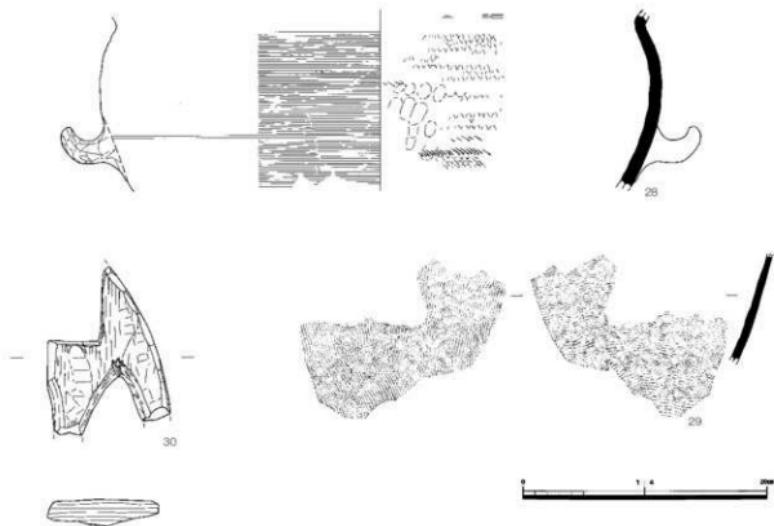
地区	調査年度	特記事項
1		掘立柱建物
2		SD01・掘立柱建物、墨書き土器「東・二・菰田力・仁」・綠釉陶器、畜串・人形・刀形・陽物・繪扇
3	平成14	SD01(環状遺構)、草仮名墨書き土器、墨書き土器「泉・和歌・*・仁」・綠釉陶器、畜串・人形・馬形・鳥形・舟形・刀形・陽物・繪扇・刀子(遺物多)
4		SD01(環状遺構)、墨書き土器「福・×」・畜串・舟形・陽物
8	平成16	SD01、墨書き土器「仁」・畜串・人形・馬形(遺物多)
10	平成17	井戸
11		SD01(遺物少)
14		畜串
15	平成18	綠釉陶器
18		SD01、畜串
19		SD01(環状遺構)、畜串・舟形
20	平成19	SD01、人形



第7図 赤田 I 遺跡遺構図 (1/1,000)



第8図 赤田地区試振調査遺物実測図（1）（1/4）



第9図 赤田地区試掘調査遺物実測図（2）（1/4）

るが、時代を特定できる遺構は皆無であり、遺構・遺物のまとまりも見られない。古代の遺構・遺物がまとまって確認できた18Tを中心とする範囲が、最も地山が安定し、かつ遺構・遺物の遺存状況も良好となっている。

（3）調査のまとめ

赤田I遺跡では、調査対象地の北側に隣接する第1期土地区画整理事業範囲（現射水市一条）において、平成14～19年度にかけて継続的に発掘調査が実施され、8世紀後半から10世紀初頭を中心とする遺構・遺物の広がりが確認されている（第7図）。

赤田I遺跡を特徴づける遺構は、一条地内西半部を南西～北東方向に貫流する幅7～10mの大溝（SD01）である。延長約130mを確認しているこの大溝からは、多量の須恵器・土師器・木製祭祀具が出土し、尾張猿投及び京都洛北産縁軸陶器や和歌の断片とみられる草仮名を記した墨書き土器の存在から、祭祀とそれに伴う饗宴の場であったと考えられている。

なお、赤田I遺跡では、中心となる大溝以外の遺構が希薄であるうえ、大溝においても遺物が多量に出土する地点が限られている。大溝は、出土遺物の時期と出土層位から、9世紀代の埋没期を挟んで8世紀と9世紀後半～10世紀の2つの二期をもつと考えられ、縁軸陶器や草仮名墨書き土器が用いられた9世紀後半以降に最も遺物量が多くなる。

今回の試掘調査においても、この大溝の延長が検出されることを想定していたが、18Tを中心とする範囲で8世紀後半の遺構の広がりが認められるものの、大溝との関連が想定できる遺構や9世紀後半以降の土器・木製祭祀具などは確認できなかった。今回の調査によって、赤田I遺跡の古代の遺構の南限がほぼ明らかとなったが、大溝のみが突出する遺跡の性格など、周辺地域との関連も踏まえた検討が必要である。

第3節 工事立会調査

周知の埋蔵文化財包蔵地内での土木工事の届出を受けた案件のうち、市街地での住宅建替えや、掘削面積が狭小な水路・個人住宅建築に係る柱状地盤改良など、通常の発掘調査の実施が困難な場合や、埋蔵文化財への影響が生じない範囲での掘削工事のうち、地下の埋蔵文化財の状況がある程度明らかになっており埋蔵文化財への影響の確認が必要な場合、現地において工事立会調査を実施した。

平成29年度に射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財の工事立会調査件数は17件であった。

No.	調査名	種別	所在地	調査面積	調査期間	対象面積	検出遺構	出土遺物
1	加茂社跡 211088	散布地・集落	三ツ矢2669-8	個人専用住宅建築	H29.4.14	662m ²	なし	なし
2	加茂社遺跡 211088	散布地・集落	三ツ矢2669-2	個人専用住宅建築	H29.5.11	642m ²	なし	なし
3	本山東遺跡 211050	散布地・集落	かもめ台55	個人専用住宅建築	H29.5.29	720m ²	なし	なし
4	木戸田智分Ⅰ遺跡 211463	散布地	木戸田地区内 (仮地番12)	は場整備 排水路工事	H29.6.16	3190m ²	不明：土瓦	古代灰陶器・中世珠渕
5	椎土遺跡 211210	散布地・鉄製	椎土字三百歩 1023, 1030, 1031	個人専用住宅建築	H29.6.26	91.1m ²	なし	なし
6	木戸田智分Ⅱ遺跡 211464	散布地	木戸田地区内 (仮地番59-62)	は場整備 排水路工事	H29.6.29	3600m ²	古墳：溝・土坑 古墳土加器	
7	南浦遺跡 211037	散布地	高4278	舗石建設	H29.7.3	10408m ²	なし	なし
8	木戸田遺跡 211376	散布地	木戸田地区内 (仮地番30-31)	は場整備 排水路工事	H29.7.6	1780m ²	なし	中世珠渕
9	本江口遺跡 211060	散布地・集落	かもめ台58	個人専用住宅建築	H29.7.10	687m ²	なし	なし
10	利光遺跡 211036	散布地	本江口250-1	通信設備工事	H29.9.1	11.1m ²	なし	なし
11	木戸田智分Ⅱ遺跡 211464	散布地	木戸田地区内 (仮地番60-62)	は場整備 壁石・鉄道工事	H29.9.18-21	21300m ²	なし	中世珠渕
12	木戸田遺跡 211376	散布地	木戸田地区内 (仮地番31)	は場整備 壁地工事	H29.9.22	22300m ²	なし	中世珠渕・近世陶器
13	青井谷干田VI遺跡 211283	梨地	青井谷干入会地行 林道	林道整備	H29.10.5	3270m ²	なし	古代灰陶器
14	青井谷干田VII遺跡 211284	散布地	青井谷干入会地行 林道内	林道整備	H29.10.18	1330m ²	なし	なし
15	青井谷干田遺跡 211286	梨地	青井谷干入会地行 林道内	林道整備	H29.10.25	140m ²	なし	なし
16	行方I遺跡 211285	梨地	青井谷干入会地行 林道内	林道整備	H29.10.25	630m ²	なし	なし
17	中山東遺跡 211096	散布地・集落・鉄製	太陽山184号	防犯灯設置	H30.3.13	12m ²	なし	なし
計	13件			調査対象面積	7159.3m ²			

第4表 平成29年度埋蔵文化財工事立会調査一覧

1. 青井谷地区林道整備に伴う工事立会調査（第12図、図版11・14）

山林内での作業道開設工事実施に伴い、周知の埋蔵文化財包蔵地範囲内でのバックホウによる作業道掘削・法面整形の施工時に工事立会調査を実施し、遺構・遺物の有無を確認した。

調査の結果、青井谷干田VI遺跡の範囲内において、須恵器壺Bの底部（第9図46）及び鉄滓が出土した。

鉄滓は、須恵器出土地点の周囲3m程度の範囲に散布しているが、同地点の掘削断面観察から遺構の存在は認められず、遺物は、隣接地の果樹畑造成等によって地形が変更された際に混入したものと考えられる。



青井谷地区工事立会調査対象地



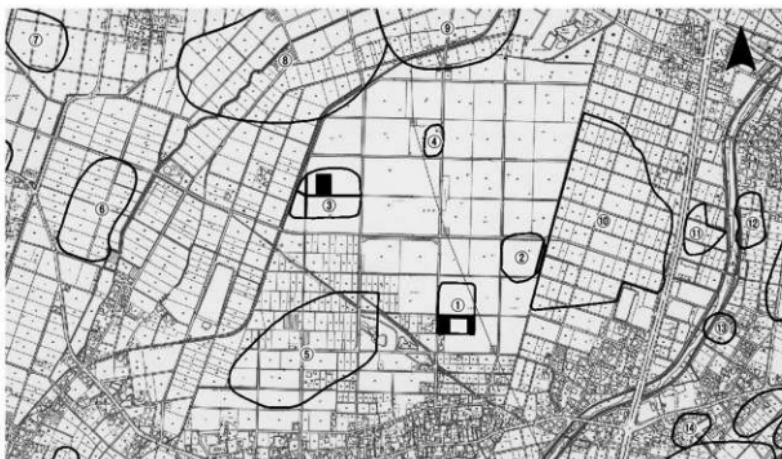
第10図 平成29年度工事立会調査実施箇所位置図

2. 水戸田地区は場整備事業に伴う工事立会調査

水戸田地区では、平成24年度以降、県営は場整備事業が実施されている。射水市教育委員会では、事業計画地内に所在する埋蔵文化財の保護のため、平成23年度に事業計画地全域の約69haを対象に分布調査を実施し、平成24～26年度にかけて約28haを対象に試掘調査を実施した。

これと並行して、保護盛土による埋蔵文化財の現状保存を基本に、既存水路拡幅等の狭小工事区域での工事立会調査等、事業計画と埋蔵文化財保護との調整を図っている。

平成29年度には、水戸田惣分Ⅰ遺跡・水戸田惣分Ⅱ遺跡・水戸田遺跡範囲内の水路敷設工事やは場整地工事の際に工事立会調査を実施し、遺構・遺物の有無を確認した。



第11図 水戸田地区工事立会調査対象地及び周辺の遺跡 (1/15,000)

- ①水戸田遺跡 ②水戸田惣分Ⅰ遺跡 ③水戸田惣分Ⅱ遺跡 ④水戸田前野遺跡 ⑤生源寺Ⅱ遺跡 ⑥繩田遺跡 ⑦本江大坪Ⅱ遺跡
⑧本田宮田遺跡 ⑨本田畑田遺跡 ⑩大白北遺跡 ⑪下条新遺跡 ⑫赤田遺跡 ⑬二の井Ⅳ遺跡 ⑭二の井Ⅲ遺跡

(1) 水戸田惣分Ⅰ遺跡 (第12図、図版11・12・14)

仮排水路掘削範囲において工事立会調査を実施した。

本遺跡では、平成25年度の試掘調査において、13～16Tを中心とした古代の遺構・遺物の広がりを確認しており、平成27・28年度にも工事立会調査を実施している。

今回の調査では、北から約50mの地点において幅約3mの東西方向の溝状遺構を1条、北から約75mの地点で径約50cmの土坑を1基、北から約85mの地点では径約50cmの土坑を2基確認した。

遺構覆土はいずれも黒褐色粘質土であり、北から85m地点の土坑から土師器の細片が出土した他、水田耕土から近世の灰釉陶器片が1点出土した。



水戸田惣分Ⅰ遺跡工事立会調査対象地

(2) 水戸田惣分II遺跡 ((第12図、図版12・13・14)

新設水路敷設工事、は場整地工事、既存農道撤去工事範囲において工事立会調査を実施した。

本遺跡では、平成25年度の試掘調査において、50~60Tを中心には弥生時代末~古墳時代初期及び古代の遺構・遺物の広がりを確認している。特に51・52・54~56Tでは、弥生時代末~古墳時代初期の土器がまとめて出土した地点もあり、溝・土坑等の遺構が複数確認されている。

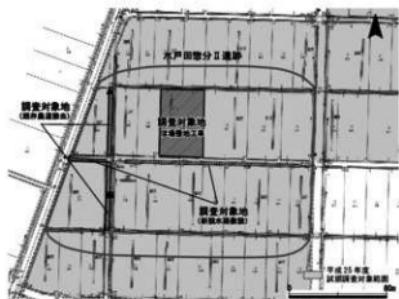
新設水路敷設工事範囲では、溝5条 (SD01~05) 及び土坑3基を確認した。

SD01は、幅0.7m、深さ30cmであり、南西~北東へほぼ直線的に伸びる。SD02・03は、幅0.7~1.0mであり、調査区外へ蛇行しつつも、水路敷設範囲にはほぼ並行する一連の遺構とみられる。深さは約15cmであり、削平によって遺構の上部がかなり失われているが、遺構内からは弥生時代末から古墳時代初期の土器（第12図31~38）がまとめて出土した。

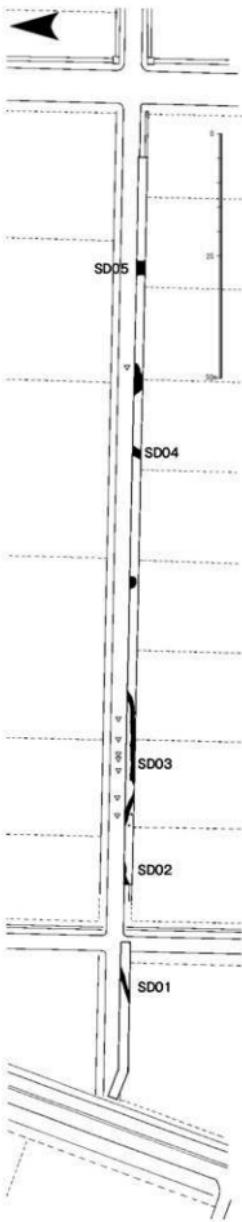
遺物は、表面の磨滅が著しいため形状を復元できたものは少ない。器種は、甕（31~35・37・38）を中心に、台付鉢（39・40）、壺（36）がみられる。甕は全て有段口縁甕である。外反した口縁端部を尖頭状に作り疑凹線を施すもの（31・32）や、有段部がやや形骸化したもの（33~35・37・38）があり、体部下半まで復元できた個体（37・38）は、一個体分がそれぞれ単独で出土したもので、球胴化した胴部を外面ハケ、内面は頸部付近までケズリ仕上げとする。いずれも古墳時代初期のものと考えられる。

その他、近代遺構の水路跡（SD04・05）及び、自然地形と考えられる地形の落ち込みを確認した。

は場整地工事及び既存農道撤去工事範囲では、遺構は確認していないが、既存農道撤去工事範囲において、水田耕土中から須恵器及び珠洲焼（第12図44・45）の破片が出土した。



水戸田惣分II遺跡工事立会調査対象地



新設水路敷設工事立会調査範囲

(3) 水戸田遺跡 ((第12図、図版13・14)

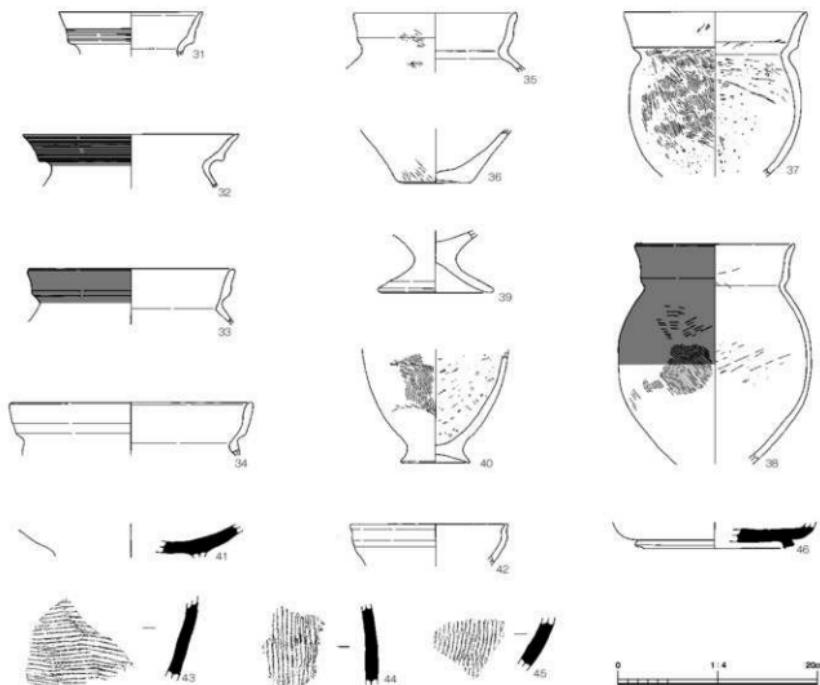
新設水路敷設工事、ほ場整地工事範囲において工事立会調査を実施した。

本遺跡では、平成26年度の試掘調査において、17・19・20Tを中心とした古代の構造・遺物の広がりを確認している。

今回の調査では、構造は確認できなかったが、ほ場整地工事範囲において、水田耕土中から古代の須恵器、珠洲焼 (第12図43)、近世陶器、近代瓦片が出土した。



水戸田遺跡工事立会調査対象地



第12図 工事立会調査出土遺物実測図

[水戸田惣分II遺跡 (31~38・44・45) 水戸田遺跡 (41・43) 水戸田惣分I遺跡 (42) 青井谷干田VI遺跡 (46)] (1/4)

参考文献

- 稻垣尚美他 2003年「赤田I遺跡発掘調査報告」 小杉町教育委員会
- 原田義範他 2005年「赤田I遺跡調査概要(1)」 小杉町教育委員会
- 原田義範他 2006年「赤田I遺跡調査概要(2)」 射水市教育委員会
- 田中 明他 2008年「射水市内遺跡発掘調査報告Ⅰ－赤田I遺跡本発掘調査他・串田地区試掘調査－」 射水市教育委員会
- 鈴木 景二 2017年「砺波市古代資料再考－東大寺莊園資料総合研究源氏国司の開拓」
- 「砺波市立砺波敷村地域研究所研究紀要第34号」 砺波市立砺波敷村地域研究所

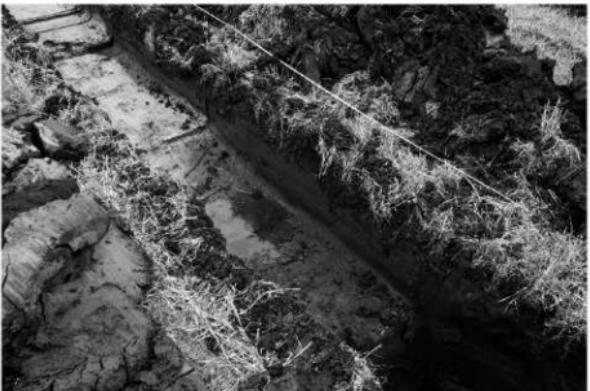
図版	No.	出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第8図	1	60T	弥生土器	壺	15.8			赤田 I 道跡	口I/8
	2	20T	弥生土器	高环	11.0			赤田 I 道跡	口I/16
	3	20T	弥生土器	不明				赤田 I 道跡	体I/4
	4	23T	弥生土器	壺			5.2	赤田 I 道跡	底存
	5	18T	須恵器	壺蓋	16.6			赤田 I 道跡 焼成不良	口I/2
	6	32T	須恵器	壺蓋	15.0			赤田 I 道跡	口I/8
	7	19T	須恵器	壺蓋	13.0			赤田 I 道跡	口I/16
	8	36T	須恵器	壺蓋	11.9		1.7	赤田 I 道跡	口I/4
	9	27T	須恵器	壺B	11.0			赤田 I 道跡	口I/16
	10	32T	須恵器	壺B	10.6	4.3	6.6	赤田 I 道跡	口I/16~底I/2
	11	32T	須恵器	壺B	15.0	6.0	9.6	赤田 I 道跡	口I/4~底I/2
	12	18T	須恵器	壺A	18.8	4.9	9.7	赤田 I 道跡	口I/16~底3/16
	13	64T	須恵器	壺B	13.6			赤田 I 道跡	口I/4
	14	18T	須恵器	壺A	12.3	3.3	8.3	赤田 I 道跡	口破片~底I/4
	15	62T	須恵器	壺B			9.9	赤田 I 道跡	底3/16
	16	18T	須恵器	壺B			8.8	赤田 I 道跡	底I/4
	17	19T	須恵器	壺B			6.8	赤田 I 道跡	底I/2
	18	35T	須恵器	壺B			7.0	赤田 I 道跡 底部にヘラ記号	底I/2
	19	18T	土師器	壺	11.1	3.5	6.2	赤田 I 道跡	底I/2
	20	18T	土師器	甕	13.6			赤田 I 道跡	口I/16
	21	67T	須恵器	甕	22.3			赤田 I 道跡	口I/16
	22	35T	須恵器	双耳瓶				赤田 I 道跡	破片
	23	35T	須恵器	壺			11.8	赤田 I 道跡	底I/4
	24	18T	須恵器	長頸壺				赤田 I 道跡	口~体I/2
	25	23T	須恵器	壺	42.3			赤田 I 道跡 焼成不良	口I/16
	26	66T	青磁	碗	14.1			赤田 I 道跡	口I/8
	27	26T	珠洲	擂鉢			12.8	赤田 I 道跡	底I/4
第9図	28	18T	須恵器	鉢				赤田 I 道跡	体I/4
	29	18T	須恵器	甕				赤田 I 道跡	破片
	30	40T	木製品	不明	(長辺)	(短辺)	(厚み)	赤田 I 道跡	破片
第12図	31	工事立会	土師器	甕	11.8			水戸田惣分II道跡	口I/8
	32	工事立会	土師器	甕	17.6			水戸田惣分II道跡 外面：口縁煤付着	口I/16
	33	工事立会	土師器	甕	16.7			水戸田惣分II道跡 外面：口縁煤付着	口I/4
	34	工事立会	土師器	甕	19.4			水戸田惣分II道跡	口I/8
	35	工事立会	土師器	甕	13.2			水戸田惣分II道跡	口I/4
	36	工事立会	土師器	壺			6.1	水戸田惣分II道跡	底7//8
	37	工事立会	土師器	甕	14.9			水戸田惣分II道跡	口~体I/2
	38	工事立会	土師器	甕	13.0			水戸田惣分II道跡 外面：口縁~体部 上半煤付着	口~体I/2
	39	工事立会	土師器	台付鉢			8.8	水戸田惣分II道跡	底I/2
	40	工事立会	土師器	台付鉢			5.5	水戸田惣分II道跡	体I/4~底I/2
	41	工事立会	珠洲	壺				水戸田道跡	破片
	42	工事立会	灰釉陶器	碗	12.8			水戸田惣分I道跡	口I/16
	43	工事立会	珠洲	壺(甕)				水戸田道跡	破片
	44	工事立会	珠洲	壺(甕)				水戸田惣分II道跡	破片
	45	工事立会	珠洲	甕(壺)			13.0	水戸田惣分II道跡	破片
	46	工事立会	須恵器	壺B				青井谷干田V道跡	底I/4

第5表 出土遺物観察表

口：口縁部 体：体部 底：底部

日の宮遺跡・畠総No.16遺跡 試掘調査 図版1

1. 日の宮遺跡
1 T遺構検出状況
(北から)



2. 日の宮遺跡
2 T遺構検出状況
(北から)



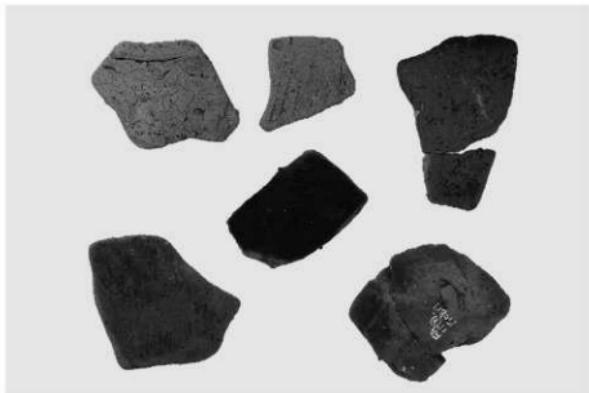
3. 畠総No.16遺跡
1 T土層断面 (南から)



図版2 二口油免遺跡・黒河西山遺跡 試掘調査



1. 二口油免遺跡
1 T 遺構検出状況
(南東から)



2. 二口油免遺跡
出土遺物
土師器



3. 黒河西山遺跡
1 T 近景 (北から)

荒町遺跡・復興小杉焼中吉原窯跡・赤井遺跡 試掘調査 図版3

1. 荒町遺跡
1 T 土層断面（北から）



2. 復興小杉焼中吉原窯跡
1 T 全景（南から）



3. 赤井遺跡
2 T 近景（東から）



図版4 高木・荒畠遺跡・朴木C遺跡・背戸狭間遺跡 試掘調査



1. 高木・荒畠遺跡
1 T 全景 (北から)



2. 朴木C遺跡
1 T 土屢断面 (南から)



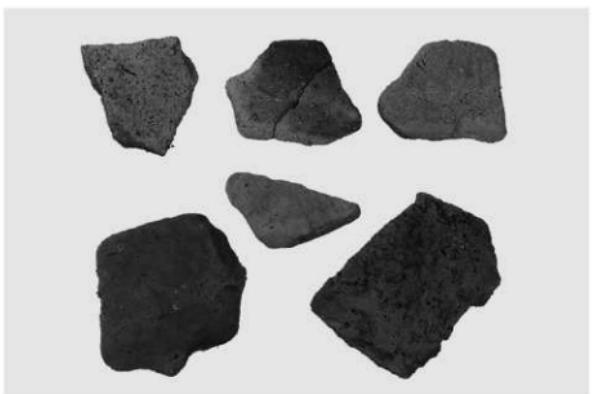
3. 背戸狭間遺跡
1 T 全景 (北から)

松木中鹿遺跡・小杉伊勢領遺跡 試掘調査 図版5

1. 松木中鹿遺跡
1 T 遺構検出状況
(西から)



2. 松木中鹿遺跡
出土遺物
弥生土器



3. 小杉伊勢領遺跡
1 T 遺構検出状況
(南東から)



図版6 小杉伊勢領遺跡・黒河尺目遺跡 試掘調査



1. 小杉伊勢領遺跡
出土遺物
須恵器
土師器



2. 小杉伊勢領遺跡
1 T 土層断面（東から）



3. 黒河尺目遺跡
1 T 土層断面（南から）

1. 赤田地区
44T 土層断面
(北から)



2. 赤田地区
18T 遺構検出状況
(北西から)



3. 赤田地区
18T 遺構検出状況
(北西から)



図版8 赤田地区 試掘調査



1. 赤田地区
65T遺構検出状況
(北東から)



2. 赤田地区
67T遺構検出状況
(北から)

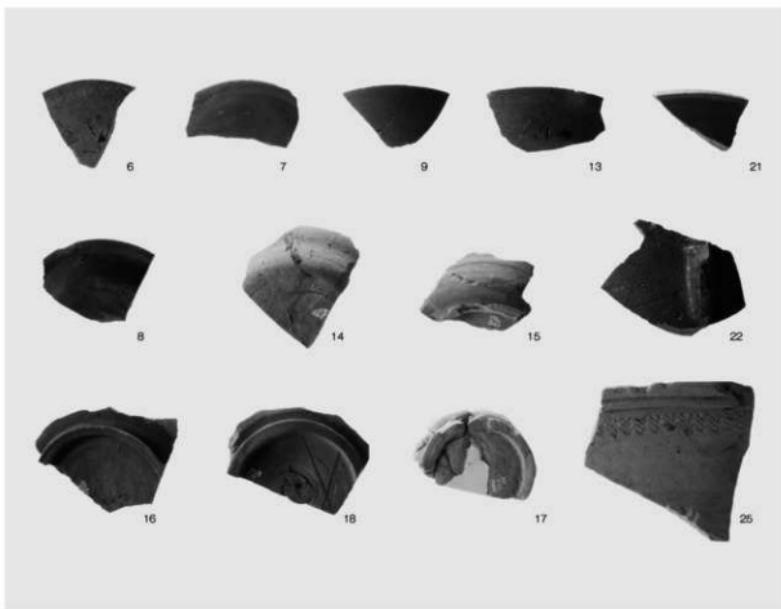


3. 赤田地区
調査状況 (東から)

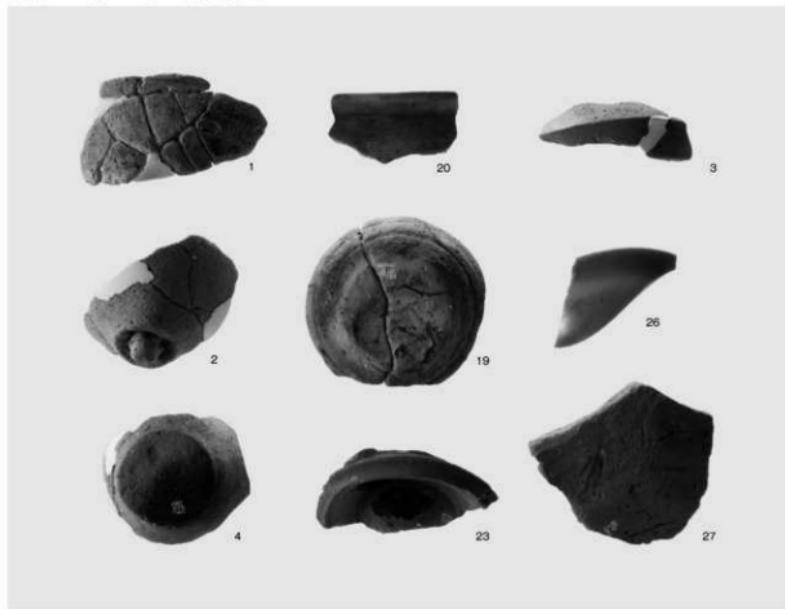
1. 赤田地区
出土遺物
須恵器
土師器



2. 赤田地区
出土遺物
須恵器



図版10 赤田地区 試掘調査



1. 赤田地区
出土遺物
弥生土器
須恵器
土師器
珠洲
青磁



2. 赤田地区
出土遺物
須恵器

青井谷地区・水戸田地区 工事立会調査 図版11

1. 青井谷干田VI遺跡
調査状況（北から）



2. 青井谷干田VI遺跡
遺物出土地点土層
(南から)



3. 水戸田惣分I遺跡
調査状況（北西から）



図版12 水戸田地区 工事立会調査



1. 水戸田窓分Ⅰ遺跡
遺構検出状況（北から）

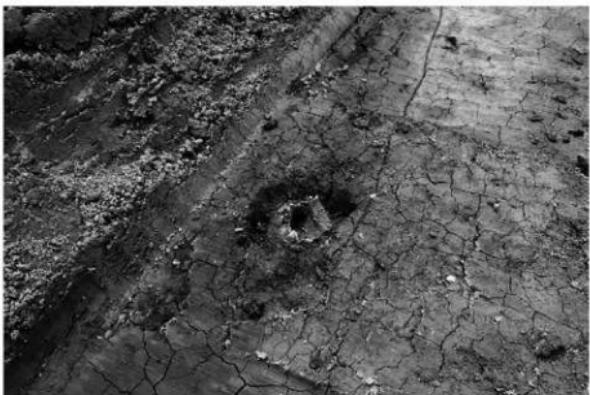


2. 水戸田窓分Ⅱ遺跡
調査状況（北から）



3. 水戸田窓分Ⅱ遺跡
遺構検出状況（東から）

1. 水戸田惣分Ⅱ遺跡
遺物出土状況（東から）



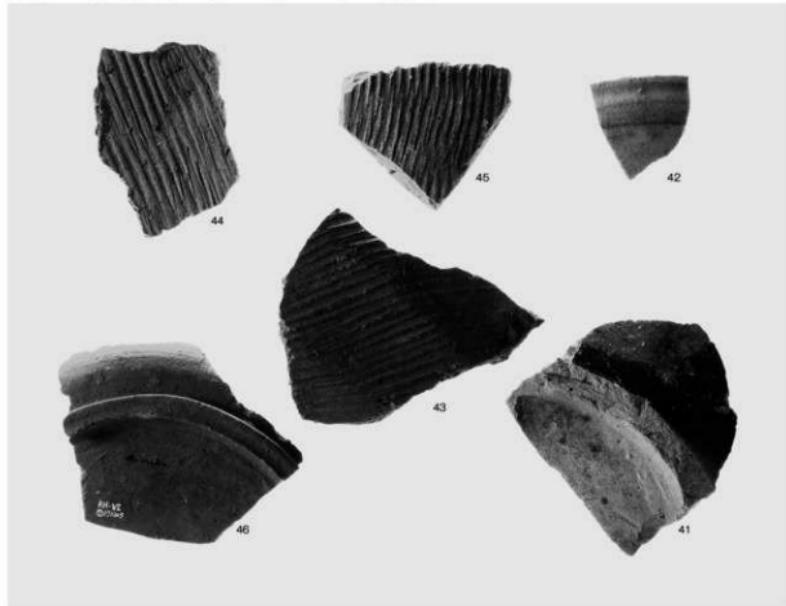
2. 水戸田惣分Ⅱ遺跡
調査状況（南から）



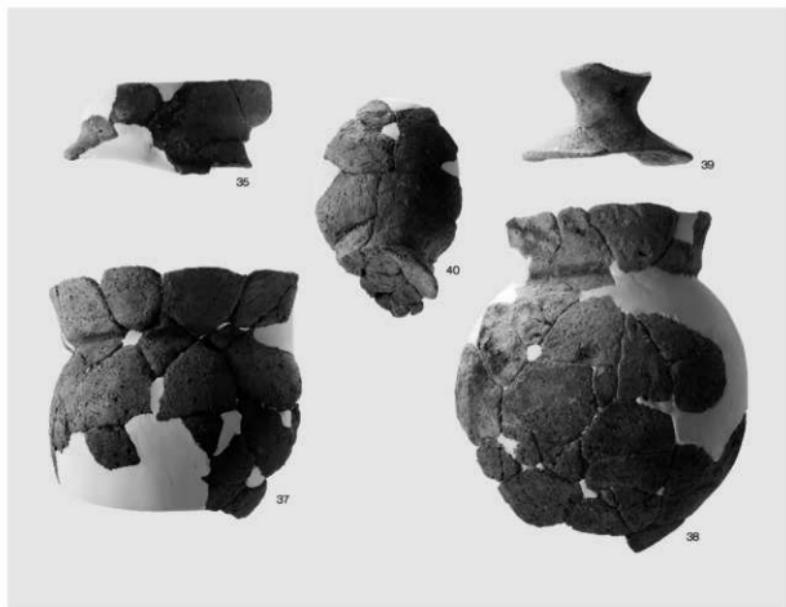
3. 水戸田遺跡
調査状況（南から）



図版14 青井谷地区・水戸田地区 工事立会調査



1. 工事立会
出土遺物
須恵器
珠洲
灰釉陶器



2. 工事立会
出土遺物
弥生土器

報告書抄録

ふりがな 書名	いみずしないいせきはつくつちょうさほうこくじゅういち 射水市内遺跡発掘調査報告11						
副書名	平成29年度射水市内遺跡発掘調査						
編著者名	金三津英則						
編集機関	射水市教育委員会						
所在地	〒939-0284 富山県射水市新聞発410番地1 TEL 0766-51-6637						
発行年月日	西暦2019年3月8日						
ふりがな 主な所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
あかんだけいのち いせき 赤田I遺跡	いみずし ほしていとう 射水市橋下条	211 361	36°42'45"	137°05'12"	20170606 ～ 20170620	1933.8	土地区画整理事業
まつのきなかじか いせき 松木中鹿遺跡	いみずし まつのき 射水市松木	211 023	36°45'26"	137°04'16"	20171121 ～ 20171122	40.9	農機具格納庫建設
こすぎ いせきよう いせき 小杉伊勢領遺跡	いみずし こすぎ 射水市三ヶ	211 087	36°43'11"	137°05'15"	20171127	27.4	個人専用住宅建築
みと たそがねに いせき 水戸田惣分II遺跡	いみずし みとだ 射水市水戸田	211 464	36°42'44"	137°04'06"	20170629	360	は場整備用排水工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
あかんだけいのち いせき 赤田I遺跡	散布地・集落	奈良・平安	溝・土坑	弥生土器・古代須恵器・ 古代土師器・珠洲・ 青磁			
まつのきなかじか いせき 松木中鹿遺跡	集落	弥生	弥生溝	弥生土器			
こすぎ いせきよう いせき 小杉伊勢領遺跡	散布地・集落	古代	土坑	古代須恵器・ 古代土師器			
みと たそがねに いせき 水戸田惣分II遺跡	散布地	古墳	溝	古墳土師器			
要約	土地区画整理事業に伴う赤田I遺跡試掘調査では、8世紀後半の遺構・遺物の広がりを確認した。						

* その他の試掘調査・工事立会調査の抄録は第1・4表を参照下さい。

射水市内遺跡発掘調査報告11

- 平成29年度射水市内遺跡発掘調査 -

2019(平成31)年3月8日 発行

編集・発行 射水市教育委員会

〒939-0284

富山県射水市新開発410番地1

TEL0766-51-6637

印 刷 株式会社タニグチ印刷
